



Desert Wind

■ 『最高の自分を生きる道』(ローマ12:1-2) ■ ■ LVJCC 牧師: 鶴田健次 ■

自分の内に潜在する可能性を最大限に開発し、実現して生きることを自己実現と言いますが、多くの方が、この自己実現の生き方こそが最高の自分を生きる道だと考えています。しかし、もっともらしいこの考え方には、ひとつ致命的な問題があります。それは神の存在を計算に入れていないことです。世界の歴史の中心、人類のドラマの演出者は神であり、その神はこの世界に特別な計画をもって歴史を導いておられ、神は必ずそこに神実現を果たされるのです。

ですから、この世に生きる私たちの最高の生き方、つまり神が素晴らしい計画と目的をもって造られた私たちの目指すべき道は、神実現における自己実現の道であるというのが聖書の教えだろと思えます。そこで今日は、『最高の自分を生きる道』について考えてみます。

① 神に自分を捧げる

まず第一に、ローマ12:1を見ると、クリスチャンは自分自身を神に捧げるようにと勧められています。御子イエス・キリストが、あなたの罪のために十字架で死んで下さり、それによって、あなたの罪が赦され、あなたに永遠の命が与えられたのであれば、これからのあなたは、そこまでの犠牲を払って下さった神に自分の全存在を捧げ、神のために生きていきたいと思うのが最も自然な応答ではないか、そうパウロは言いたいのでありましょう。

昔、イスラエルが荒野の旅をしたとき、その陣営の真ん中には神の臨在の象徴である契約の箱がありました。そこには神がおられ、その神を礼拝することが彼らの生活の中心であったのです。イスラエルの民にとって、神礼拝は彼らの命でした。それは、今日の私たちにとっても同じで、私たちの人生は神礼拝を中心に形成されなければなりません。「私自身を神様にささげます」という礼拝こそ、クリスチャン生活の中心であるべき

なのです。D・L・ムーディは、ある礼拝で神の迫りを感じ、献金袋の中に、'D・L・ムーディ'と書いた紙切れを入れたそうです。自分自身を捧げたいという思いの表れだったのでしょうか。

② この世と調子を合わせない

クリスチャンとして生きる基本姿勢のもう一つは、自己変革です。ローマ書12:2を見ると、この世と調子を合わせず、神の御心を知り、心の一新によって自分を変えなさい、と言われて

ています。この世と調子を合わせてはいけないというのは、自己変革の消極的な側面です。それは、この世と距離を置くことではなく、神に属する者とされたクリスチャンが、この世の考え方に支配されたり、利己的な動機から何かをするようなことがあってはならないということです。例えば皆がごまかして脱税をしても、私はちゃんと税金を納める。このように決心して実行することで、教会にいても、教会の外にいても、神様の御心になつた歩みを選び取っていく。それがこの世と調子を合わせないという生き方であり、最高の自分を生きる道です。

③ 心の一新によって自分を変える

第三のことは、自己変革の積極的な側面です。ここには、心の一新によって自分を変えなさいとあります。しかし、そう言われても自分を変えることは簡単ではありません。多くの方が、自分を変えるためのセミナーに行ったりしますが、あまり効果がありません。なぜなら、そこでは何をすべきかを教えてくれないから、それを実行する力を与えてはくれないからです。それは、神の全能の力によつて変えられるものなのです。

神の全能の力とは、私たちの人生を変えることのできる、イエス・キリストを死からよみがえらせた復活の力です。この復活の力によって、過去を帳消しにし、問題に打ち勝ち、私たちの人格をも変えて下さるのです。そして神は、この復活の力を聖霊によって私たちに与えると約束して下さいました。私たちはキリストを信じることによって、御霊の内住をいただき、その御霊の力によって私たちは変えられるのです。

DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立

お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救い
- 各スモールグループのオイコス伝道のために
- 入門者クラスのために山口兄、福留兄、石原兄姉
- 英語部の働きのために
- ユースミニストリー、サンデースクールのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃん、倉田一徳さんの脳腫瘍、神崎先生の目、植木ケン兄の糖尿病、新井雅之兄の癌、中村裕二先生の直腸癌、藤永君江姉の癌、Simeon 兄の癌、スカイ君の心臓、工藤忠行兄の癌

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。
lvjccdw@hotmail.co.jp
発行: 鶴田健次
編集: 松岡みどり



編集室・気まま便り

早いもので「デザートウインド」は60回目の発行を迎え初版から5年が経ちました。これまで毎月聖書のメッセージと Q&A を書き続けてくださった鶴田先生に心から感謝致します。また主を証しする様々なストーリーを掲載できましたことも皆様の温かいご協力のおかげでした。本当にありがとうございます。

デザートウインドは教会設立当初、鶴田先生がご自身で発行されていたのが最初ですが、教会の月間ニュースレターとして初代編集長の未樹姉妹が立てられ、2006年12月号から正式にスタートし、2008年10月号を最後に未樹姉妹はCAへ引越されました。次にバトン渡されたのが私というわけですが、主のご配慮と御力を受け今日まで来ることができました。また、読者の皆様の応援に心より感謝申し上げます。

「・・・ましてあなた方に良くして下さいというわけがありませんか・・・」主の御言葉を感謝致します。

「神こそ我が望み」

証し: ひろこ Budge

主の導きにより、このたび証しをさせて頂けることに感謝します。

私は沖縄で、兄二人姉の二人の、五人兄妹の末っ子として生まれました。一番上とは20歳、すぐ上とは7歳の年の差があります。私が2歳の時、父が戦争で亡くなり、母は家族を抱えて、毎日、言葉には表せないほどの大変な苦勞をして私達を育ててくれました。私は兄姉と年が離れていたため、結婚した兄姉の子供達3人の子守りをしなければならず、思うように中学校にも通う事が出来ませんでした。それでも無事に卒業する事ができました。

1965年、私は沖縄の米軍基地にいたアメリカ人の夫に出会い結婚しました。夫の勤務先が沖縄を皮切りにあちこちに移転し、1968年からは、サウスカロライナ、ニューヨーク、バージニア、そして再び沖縄へと住居を変え、その間に4人の息子達を与えられました。

ラスベガスには1980年に引っ越して来ましたが、その時から主人の母を引き取り、1988年に亡くなるまで一緒に住みました。そして、ラスベガスに来てからは私も働くようになり、まだ息子達は小さく母親の手が必要でしたが、お金を扱う責任の仕事を任せられ、ミスをして仕事を失っては困ると思いつつも懸命でした。共に働いた主人は1998年に亡くなりましたが、結局、私はそこで23年間働くことになりました。まさか自分がラスベガスでこのような仕事につくとは夢にも思っていませんでした。

その間、私たち夫婦が忙しく働いていたため、息子達と過ごす時間が少なくなり、彼らには非常に寂しい思いをさせたと思っています。そんな中で、私がかつて守られ、こうしてやって来たのは、神様の導きがあったからだと今になって本当によく分かります。

私は幼いときから、貧しい生活をし、辛い事、苦しい事、寂しい事をたくさん経験してきましたが、全てを相働かせて益に変えて下さる唯一の真の神様に会えることができ、今は神様にすべてを感謝しています。

私が病気のときは、一日も欠かさず見舞いに来て、私いつも祈りを共にしてくださった同じ沖縄出身の栄子姉妹が私の信仰の友として近くに来てくださったことは本当に神様の恵みでした。また今も栄子姉妹は、パーキンソン病や糖尿病の病

で起き上がれない私を気使い助けて下さいます。このように色々な病気を抱えた私がかつて心配しないで生きていくことができるのも、ひとえに神様の守りと栄子姉妹の励ましのおかげです。

そうやって私は栄子姉妹に導かれてラスベガス日本人教会に来るようになりました。そして、鶴田先生の入門クラスを受け、自分の罪を告白し、イエス様を私の救い主として受け入れ、2008年3月23日に小林豊兄(香織バンクス姉のお父様)、佐藤静香姉(日本帰国)の二名の方々と共に洗礼の恵みにあずかりました。これまでの導きを心から感謝いたします。

穴を掘るものは自らその中に陥る、石をまろばしあげ者の上に、その石はまろびかえる。(箴言 26章 27節)

この聖句は、父が亡くなり子供達を育て、自分の兄の世話をし、苦勞ばかりの人生で、76歳で亡くなった母を思い浮かべた時、与えられた御言葉です。他人に対して悪をたくらむ者には、その悪が報いとして自分の身に降りかかると言われています。聖書はいつでも戒めを与え、正しい生き方を示してくれます。私は神様が願っておられる道をこれからも歩んで行きたいと思えます。

ラスベガスに来て私が仕事をしてきた時期に、思うように子供達に愛情が伝わらなかったのでしょうか。現在、子供たちは互いに連絡を取り合っていない状況です。この事は私の心の大きな痛みであり、また私の日々の祈りです。生活のためとはいえ、子供達に寂しい思いをさせてしまったことへの許しを願い、彼らがかつては主にある兄弟愛をもって互いに愛し合い、平和な関係を持って生きていってくれることを心から願っています。

神様は必ず私の心の叫びを聞き、この願いをかなえて下さることを信じて毎日祈り続けます。

わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れて下さるといふことである。そして、わたしたちが願い求めることは、なんでも聞き入れて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでにかえられたことを、知るのである。(第一ヨハネ 5章 14、15節)